

健康万歩計は、西北五医師会が、皆さんが健康で元気に過ごすために必要な情報を提供し、ドクターからのアドバイスを紹介するコーナーです。今回は西つがる歯科医師会より寄稿いただきました。



「口腔機能発達不全症」について

ひらた歯科 院長 平田 俊介 先生

「口腔機能」とは、咀嚼(そしゃく)・嚥下(えんげ)・呼吸という生命の根幹をなす機能と、構音、表情を作るといったコミュニケーションに関連する機能のことをいいます。

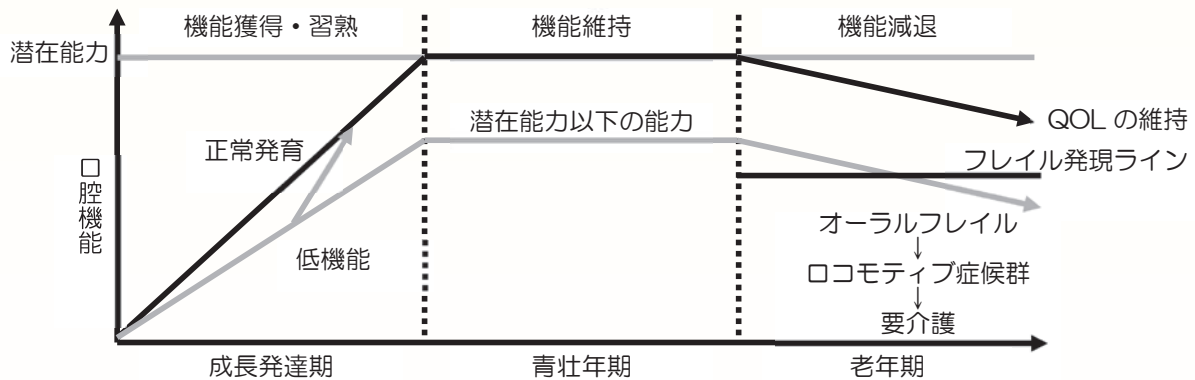
「口腔機能発達不全」とは「食べる機能」「話す機能」「呼吸する機能」が十分に発達していないか、正常に機能獲得ができておらず、摂食機能障害の明らかな原因疾患がなく、口腔機能の定型発達において個人的因子あるいは環境因子に専門的関与が必要な状態をいいます。

老年期の口腔機能の低下を予防し、壮青年期における口腔機能を維持するためには、成長期における健全な口腔機能の発育が必要不可欠になります。すでに発達不全が認められるのであれば、軌道修正もしくは底上げをしてあげる必要があります。

普段何気ないときにポカンと口が開いていたり、

普通に食べているように見えて実は舌の使い方が間違っていたり、顔面全体を使い、苦しそうに食べているケースが見られることがあります。その場合、正常な成長発育のラインに乗っていない、いわゆる発育不全になっている可能性があります。食べている＝正常な発育ではないこともあります。食べるのがやたら早い、やたら遅い、ポロポロこぼしちゃうなど食べることに気になることがありましたら、お近くの歯科医院にご相談ください。

最後に大事なのもう一度言います。生涯における「話す」「食べる」「呼吸する」という口腔機能の維持のためには成長発育期の健全な発育が鍵になっています。子供たちが持っているポテンシャルをより上げてあげることにより、将来の口腔機能の維持につながります。「歯で困ったら」ではなく「食べることで困ったら」歯科医院にご相談ください。



逆算して考えると、老年期にQOLを維持するためには、成長発達期である小児期に正常発育を達成させるか、低機能の状態を軌道修正させるかが鍵になります。

〈木本茂成, 小児医療従事者として知っておきたい小児歯科のトピックス; 小児保健研究, 第77巻第2号90-97, 2018より改変〉

救急医療当番医 診療時間 9:00~12:00 *受診前に必ず各医療機関に電話で確認してください。

日程	病院名	電話番号	消防署救急病院 紹介電話 34-4999
6月4日(日)	かねひらクリニック(旭町55-2)	35-3167	
6月11日(日)	増田病院(新町41)	35-2726	
6月25日(日)	白生会胃腸病院(中平井町142-1)	34-6111	

人口のうごき

令和5年4月末 住民基本台帳 ()内は前月比

総人口…51,164人(-99) 男…23,472人(-42) 女…27,692人(-57) 世帯数…25,616世帯(+25)